



平成28年1月22日
海上保安庁

西之島の火山活動の状況（1月19日観測）

1月19日、羽田航空基地所属航空機（MA725 みずなぎ）により、西之島の火山活動の観測を実施した。

1. 噴火の状況

火砕丘にある火口からの噴火および火口付近からの噴気も認められなかった（図1）。また、地表には新たな溶岩流は認められず、顕著な地形変化も確認できなかった。熱計測の結果では、火口縁では50℃以上であるが、火口底は20℃前後であった。火砕丘周辺の溶岩原では依然100℃以上の高温域が点在している（図2）。

西之島の周囲の海岸沿いに幅約200～400mの薄い褐色の変色水域が分布していた（図3）。

約1時間の観測中の噴火は認められなかったものの、西之島の火山活動は引き続き継続しており、今後も噴火による影響が及ぶおそれがあることから、西之島及び周辺海域（島の中心から半径4kmの範囲）においては、付近航行船舶へ引き続き航行警報により警戒を呼びかけている。

2. 新たに形成された陸地の状況

前回（12月22日）の当庁航空機による観測と比較して、面積にほとんど変化は認められない。

同乗した東京工業大学火山流体研究センターの野上健治教授からは、「火口やその周辺での噴火は発生せず、噴気活動も認められない。表面上、火山活動は落ち着いている。但し、変色水域の発生は継続しており、その範囲も昨年末の観測と比較しても若干拡大している。また、色調からも熱水活動は必ずしも静穏になっていない。以上のことから、マグマの上昇は現時点では停滞しているものの、脱ガスは進行しており、これに起因する地下浅所での熱水活動のみが継続していると考えられる。」とのコメントが得られた。

※1月19日時点での形状（暫定値）

- ・東西：約 1,900 m（12月22日時点 東西：約 1,900m）
- ・南北：約 1,900 m（12月22日時点 南北：約 1,900m）
- ・面積：約 2.63 平方 km、東京ドームの約 56 倍

（12月22日時点 約 2.62 平方 km、東京ドームの約 56 倍）

（参考）西之島全体の面積（旧西之島を含む）：約 2.64 平方 km

（噴火前の西之島の約 12 倍）

○西之島の面積の比較

基準とする事物	面積	各事物に対する西之島 （12/22 時点）の広さ
	(km ²)	
東京ドーム	0.0468	約 56 倍
バチカン市国 [世界で最も小さい国]	0.44	約 6.0 倍
仁徳天皇陵	0.479	約 5.5 倍
東京ディズニーリゾート	1.003	約 2.6 倍
大阪城公園	1.06	約 2.5 倍
南鳥島 [日本最東端]	1.51	約 1.8 倍
モナコ公国 [世界で 2 番目に小さい国]	2.02	約 1.3 倍
西之島 (1/19)	2.64	

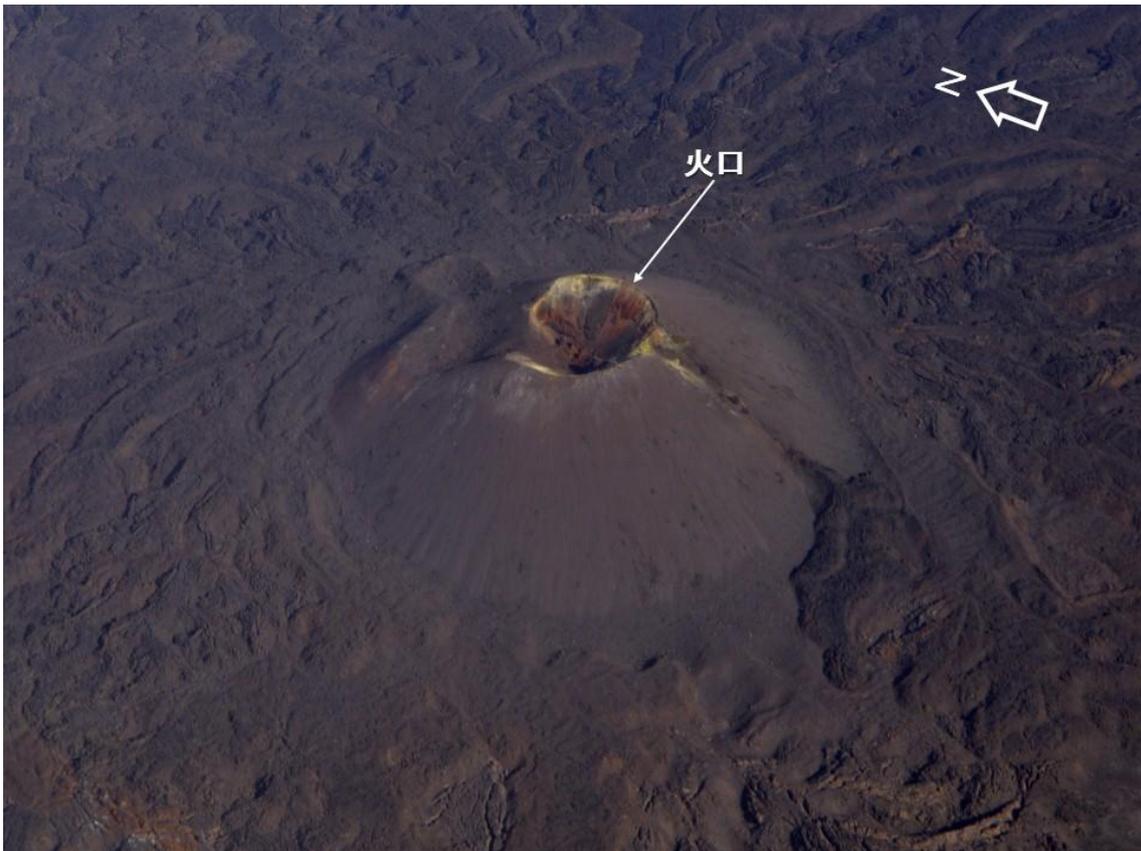


図1 火砕丘と火口の様子 (1月19日撮影)

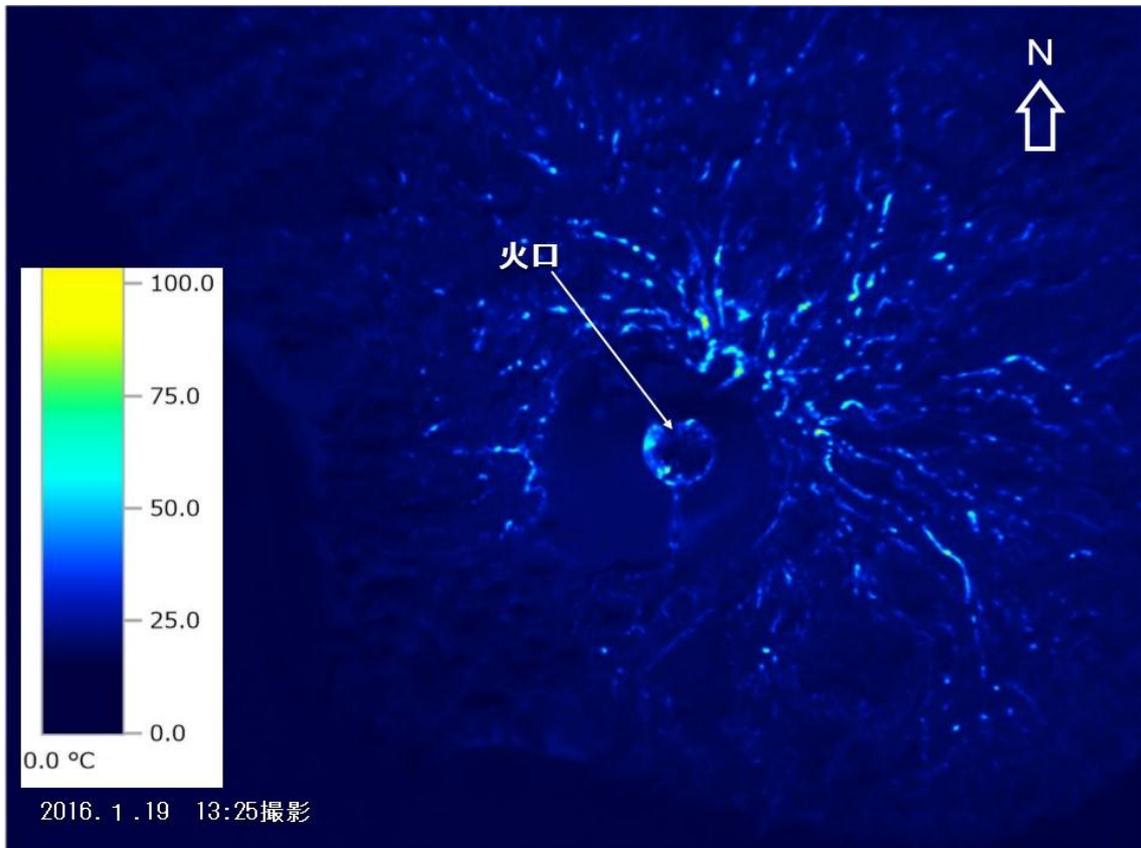


図2 地表の熱画像 (1月19日撮影)

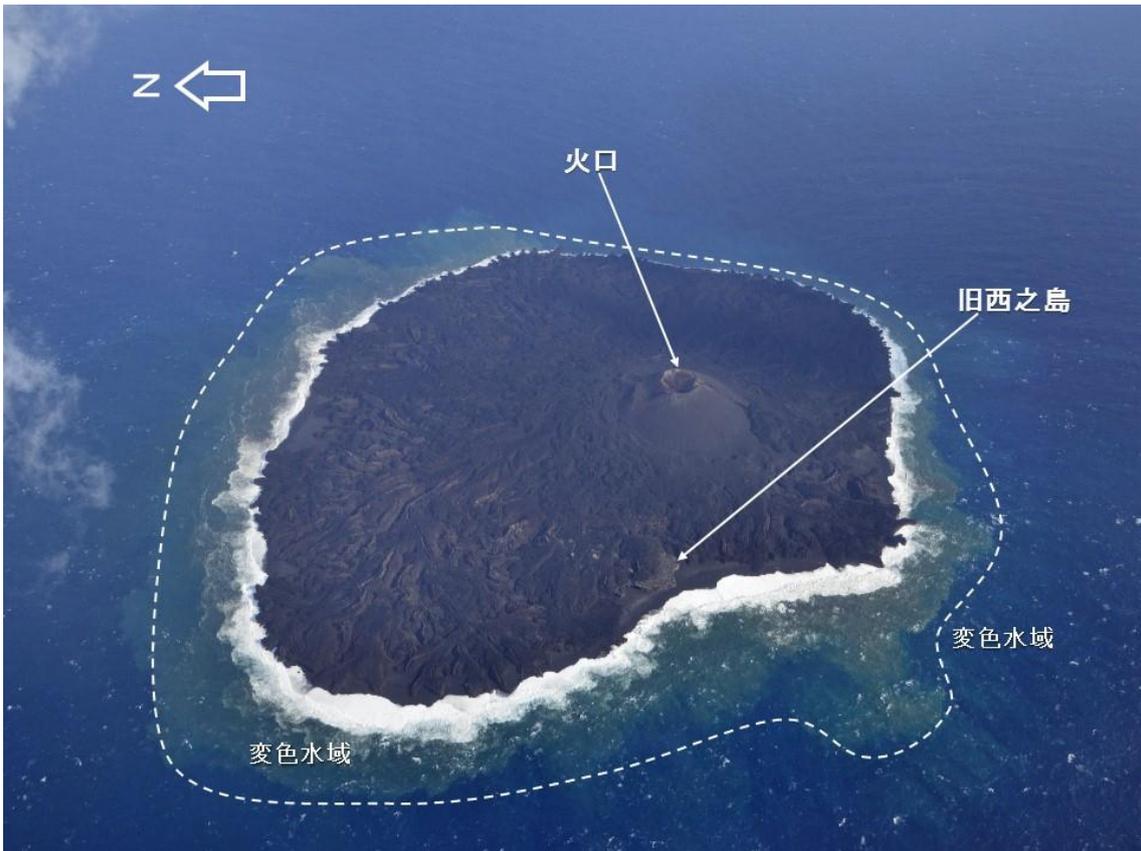


図3 西之島周囲の変色水域の分布 (1月19日撮影)